

多田銀銅山

悠久の館を訪ねて

皆さんは、町の鉱山遺跡「多田銀銅山」をご存じですか？
今年で国史跡に指定されてから5周年を迎えました。
今回は、多田銀銅山の数々の資料が残されている「多田銀銅山悠久の館（以下、悠久の館）」で、お話を伺ってきました。
▼問合せ 社会教育室（☎767・2600）



多田銀銅山 悠久の館

▶開館日 火～日曜日・祝日、午前9時～午後5時
▶問合せ ☎766－4800



県内初の国史跡に

多田銀銅山は、豊臣秀吉の時代から約300年に渡って採掘が行われ、猪名川町のほかに、川西・宝塚・池田・箕面市、能勢・豊能町の7つの市町に広がる大規模な鉱山です。最盛期となる江戸時代には多くの銀や銅が産出され、鉱山を中心にくさんの人々で賑わっていたといわれています。

町では、多田銀銅山の昔の様子を知るための調査を重ね、平成27年に銀山区の一部が多田銀銅山遺跡として、県内の鉱山遺跡で初めて「国史跡」に指定されました。これは、日本に千力以上ある鉱山の中でも採掘・製錬技術や鉱物の産出量などのわかる資料、当時のまち並みや生活用品などが大切に残されており、歴史・学術的に価値が高いことが理由です。過去の資料などは、悠久の館に保存されています。



悠久の館
山本 修 館長

企画展 開催中

国史跡になったワケ

現在、悠久の館では遺跡に詳しくない人にもわかりやすい「企画展」（令和3年3月28日まで）を開催中です。国史跡になった理由やポイントなども紹介しています。



国史跡になった3つのポイント

◆各所で発見された「古文書」

国史跡に指定された大きな理由は、多くの「古文書」が残っていたことです。町外からも多田銀銅山のことが書かれた書物が発見され、当時の多田銀銅山の様子や人々の暮らしを知る手がかりとなりました。

どんな「古文書」が残っているの？

例えば、江戸時代の役人だった秋山良之助の日記。その中には、鯛やぶりの刺身を食べたことなどが書かれています。自動車もない時代に海から遠い銀山区で刺身が食べられたとは驚きですね！当時から流通が盛んだことがわかります。



◆優れた「製錬技術」

多田銀銅山は、鉱石から銀と銅を取り出す「南蛮吹」という方法を日本でいち早く取り入れた鉱山です。また、明治時代になるとレンガ造りの「堀家製錬所」で製錬などが行われていたんですよ。

◆今も残る「遺跡」や「遺物」

多田銀銅山で約2,000以上あるといわれる間歩（坑道）や製錬所などの「遺跡（下段で紹介）」や当時の面影を残す「まち並み」が今も大切に残されていることは、国史跡になった重要なポイントのひとつです。企画展では、当時の生活用品なども展示しているので、ぜひご覧ください。



※車でお越しの際は、悠久の館駐車場をご利用ください。悠久の館より北へは、徒歩での散策となります。



明治時代のレンガ造り

堀家製錬所跡



今も残る坑道

青木間歩※現在公開休止中

銀山区には、数々の遺跡が大切に残されています。ぜひ悠久の館付近を巡ってみてください！

銀山区に残る遺跡の数々



編集後記

実際に悠久の館やその周辺の遺跡を見て、歴史を肌で感じるものが出来ました！町の史跡を子どもたちにも伝えていけるといいですね！
三木 今月号より担当させていただきます。猪名川町の「いくな」を皆さんにお伝えできるよう頑張ります！